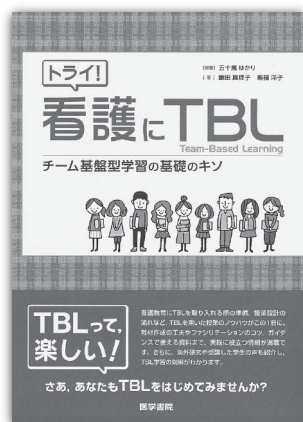


この本、いかがですか？

本当のアクティブラーニングを実現するための TBL



トライ！ 看護に TBL チーム基盤型学習の基礎のキソ

五十嵐ゆかり 編著
飯田真理子, 新福洋子 著
本体 2200 円＋税
B5 判／医学書院／2016 年

評者

吉田 墨
東京大学

今、日本の教育は変わりつつあります。授業という、教員が一方向的に話し、学生は眠そうにその話を聞く、というイメージがあるのではないのでしょうか？それが、今は、学生同士や学生と教員が対話して理解を深める双方向な授業に変わりつつあります。そのような、学生が受動的ではなく能動的に行なう学習はアクティブラーニングと呼ばれており、適切に導入されれば高い効果を示すため、注目されています。ただ、アクティブラーニングという言葉が先行してしまい、無目的に話し合うだけ、発表するだけ、といった見た目がアクティブなだけ

の授業が少なからずあるのが現状です。

そのようななか、本書は、本当の意味でのアクティブラーニングを実現するための方法である TBL (Team-Based Learning) に関する情報を提供しています。TBL とは文字通り、チームを中心とした学習方法であり、授業前にはテーマに沿った知識を自習し、授業内では、まず事前学習の内容に関するテストをして知識の確認をした後、実際の看護現場における応用問題に 5～7 名のチームで取り組む方法です。例えば、妊娠に影響を及ぼす疾患のある女性へのケアに関する基礎知識を授業前に学び、授業内では、まずその知識に関するテストをした後、具体的なケースにおいてどのようなケアをするべきかをチームで知識を活用して考えます。このように、具体的な事例をベースにしていることで、ただ知識を漠然と覚えるのではなく、実際の看護と知識を結び付けることができます。また、チームで問題に取り組むことで、医療現場では重要な協働する力が身につきます。

本書は、現場に活きる知識および力が身につく TBL の効果的な授業への導入方法を丁寧に伝えてくれます。事前課題、テスト、応用問題のつくり方、授業設計の方法、学生の対話を促進する方法など、実際の問題や分単位の授業スケジュールといった具体例を交えつつ、ポイントを押さえて提示してくれます。さらに、聖路加国際大学に組織的に TBL を導入した数年にわたるタイムスケジュールや研修会の配置など、参考になる情報が盛り込まれており、TBL を取り入れた授業づくりをしたい人にとって、かゆいところまで手が届く良書です。

数多くの示唆に富んだ本書が、知識と現場をつなぎ、協働する力を育む素晴らしい授業づくりに、ひいてはよりよい看護につながることを期待しています。

J